

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等で振り返りを行い共有に繋がっている。	全体ミーティングをすることで次に何をするか目標を決めサービス向上にむけての委員会での報告を全部回覧され確認できていました。また管理者が常に理念を念頭に置き、日々の業務に反映できるように声かけ・指導ができていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体で地域ボランティアとの交流を大切にしている。	園芸・手芸・ヴァイオリンのボランティアの受け入れで利用者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアを受け入れ、グループホームを理解していただけるように進めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に、包括職員、家族、地域の方とで実施している。	行政も毎回参加し、推進会議メンバーも多彩でした。感染症：協力病院などその時々にあつた情報交換ができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	待機者の状況報告、感染症などの指導、事故発生時の報告などを日頃から行っている。	市の職員から毎月退所者のことを聞かれ、こちらから質問に対しても答えてくれている。市との連携も非常に密にできていました。小さな市(町)だからできる、こまわりの効いた行政との関係作りが、できていました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠のない生活に取り組んでいる。	身体拘束はないのが当たり前と考えている。ベット枠、車椅子対応などスタッフみんなでカンファレンスの中で話し合い共用している。マニュアルも作成し教育している。	「身体拘束」の持つ意味をより深く見つめいただき、今作成しているマニュアルを基に、より職員教育に力をいれたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域包括センターに相談しながら進めている。今後、職員研修についても検討の予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後成年後見制度について職員研修を検討予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書に沿って説明し、ご家族の不安な点を聞き、答えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人として事業所ごとにアンケートを実施し、意見を聞くようにしている。また、面会時に要望があるか直接尋ねるように心がけている。	アンケートを取りはじめて職員の、意識が違って来たとの事、利用者さまより頂いた、意見をスタッフ教育に活用し、うまく職員の質向上に向けた取り組みを実践していました。	利用者：家族が100%満足することは難しいけれど、困難な事例こそ職員、管理者がひとつになり対応していただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティング、ユニットミーティングを通して意見交換している。	管理者を中心に、職員の思い：業務の不満：ストレスとスタッフとのコミュニケーションを図りながら改善方向に努力されていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が目標を持って働けるように取り組んでいる。ゆとりを持って利用者と接することが出来るように交代で現場から離れて休憩時間をとれるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の目標に合わせて法人内の研修を活用できるように希望を聞いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で各事業所とネットワーク作りを行い連携を取っている。介護支援専門員協会を通しての交流、外部研修での交流はあるが、近隣のグループホーム同士の交流は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	じっくり傾聴することで安心され、不安が軽減できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活やご本人の様子などを丁寧に聞き、これから先の生活に安心していただけるように信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活の状況、特に食事の好みなど十分に聞き取るようにしている。多サービス利用事業所に問い合わせし連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る部分は取り組んで頂けるように支援し、共に生活しているという実感をもっといただけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、居室でゆっくり過ごしていただけるように配慮している。また生活の状況等も詳しく報告するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの関係が継続できる外出、また面会も歓迎している。また、ご本人の希望を聞きながら外出支援を進めている。	ボランティアでヴァイオリンの先生が来ることでそれがみんなの楽しみとなり、いい雰囲気づくりができています。お墓参りの希望は家族に伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に閉じこもりがちにならないように声かけに努めている。食事の準備など皆さんで助け合えるようにし、利用者同士の交流に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には、必要に応じて支援する旨を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向の把握が困難な場合にも、普段の何気ない会話などを考慮し、ご本人の立場に立って考えるようにしている。	日常生活での、会話を楽しみながら意向を聞き、自由な暮らしができるよう支援している。利用者の細かな部分までの聞き取りを重視していました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用者を訪問し、前介護支援専門員から情報収集、家族からの聞き取りすることで経過把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、担当者の気づきから状況把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的、計画的なカンファレンスでご本人の現状に即した介護計画作成に努めている。	ケアプラン：介護記録をもとに介護計画に生かしておられました。日常業務の中で記録された細かな利用者の言葉、行動を見逃さないように業務日誌の記入にも努力されていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現状記録をよりより細かな日々の記録充実に努めている。また、情報共有することで統一したケアができるように進めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応できるように取り組んでいる。受診については、ご家族の状況に合わせて移送サービスを利用できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアとの関わりの中で、手芸、歌などの楽しみが持てるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当者から医師に日頃の状態を伝え、疑問点は問い合わせるようにし、日頃のケアに役立てている。	かかりつけ医は往診してくれる。その日の勤務者が、担当医に担当者作成の、記録書をわたし、利用者情報提供ができていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護職と連携、相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状況提供することで、安心して治療していただけのように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に応じその都度連絡、話し合いを行っている。希望に応じながら、法人内でも連携して対応を進めている。	延命についての話し合い・状態の変化は法人内での連携は取れている。看取りの実績はこれまでになく訪看にかかわってもらわないと難しいのが現状だ。	家族との話し合いの意向に踏まえて法人内との連携を図る。ターミナルケアの取り組みも家族から信頼されるよう今以上努力をしていただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	各マニュアルを整備し、訓練・研修を通して実践力を身につけるように努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、水害整備も行っている。市の指導により防災無線を設置している。	何年か前に水害があったらしいが法人内はまだ整備されていないとの事である、市から防災無線の設置をするように言われている。	定期的な訓練は実施されているようですが、市からの指導に添った対応に期待いたします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れ合いから声かけ・口調に失礼がないように常に意識し、個別にサービス提供ができるように心がけている。	親しき仲にも礼儀ありの言葉のように利用者様個々の、個性を大切にしながら言葉かけ、誘導等にも細やかな配慮がなされていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に声掛けし、自己決定に繋げる声かけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに沿った生活をしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みの服装が出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりが出来る部分で協力しながら行っている。ゆったりとした時間となるように心がけている。	一人ひとりのペースに合わせた配置で調理、盛りつけは工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士に相談し、カロリーを参考にしている。個人に合わせ形状等に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方は自分で行ってもらい、個人に合わせて声かけ・見守り・介助を行っている。必要に応じて、協力歯科医院に相談し、口腔ケアの指導をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人のペースにより支援している。トイレでは、プライバシーを尊重するように支援している。	個々にあった排泄誘導をしている。本人の希望に沿った支援に努め自信が持てるよう、優しい言葉掛けと見守りながら自立へと促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩・体操の運動、水分摂取にも配慮している。必要に応じて主治医に相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	楽しみながらゆっくりと入浴していただけるように配慮しているが、行事、ボランティア交流などでいつもの時間帯をずらすこともある。	安全確保に努め個々の入浴習慣に沿ったゆったりとした時間が過ごせるよう配慮する。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のペースに合わせた休息を意識し援助している。必要に応じて寄り添い安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	支援している。症状の変化については、随時主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	在宅で行っていたバイオリンの稽古を入居後も継続し楽しみにしておられる。他利用者も一緒に歌う等して楽しみが広がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の戸外に出る支援はできているが、普段行けない場所については、ご本人の希望等把握しきれない部分があり充分とはいえない。	個々の利用者に合わせた、対応ができていました。日曜日に教会に行かれる方：花屋さんに行く方など、家族と協力し外出支援に努力されていました。	家族の協力も得てできる限り本人の希望が叶うよう配慮し満足感を感じて、いただくように努力していただきました。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方が少なく、ほとんどの方は預っているが、買い物などで支援できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられ、毎日家族の電話を待っておられる方もいる。希望があれば電話の取次ぎなどを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気になるようにしている。リビングには、ソファ、和室にこたつを置き、個別に好きな所で過ごせるように配慮している。	四季感を感じてもらえるようカーテンの色なども替え工夫している。できる限り家族に近い環境作りに努め個々が安心していつも穏やかな状態で暮らせるよう支援していく。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも、和室、ウッドデッキ等用途に合わせて過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていたこだわりの家具などを持ってきていただき、ご本人の落ち着ける居室になるようにしている。居室のカーテンは、好みの物を持ち込んでもらっている。	居室は個々の個性が活かされている。自然体で自由な暮らしができるよう支援し見守っていく。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの環境で手すり等で安全に配慮している。外出時、下足に履き替える際には、安全を配慮し、玄関に椅子を用意している。		